

令和元年12月全体研修 美術館とiichiko総合文化センターの施設見学



第3期サポーター初となる施設見学は美術館と舞台芸術などをおこなうホールがメインです。美術館では太田副課長と回り、1階アトリウムの床パネル下まで見たりと施設の裏側まで知る機会となりました。



普段目にする事のない屋上から天庭を見下ろしたり、美術館の環境維持のための重要な設備を見学しました。



iichiko総合文化センターに移り、質来管理監と2つのホールや楽屋などを回りました。美術館で原画を所蔵する宇治山哲平作品の陶板レリーフ（複製）などを見ながら、総合文化センターと美術館の役割や連携について学びました。

令和2年1月全体研修 井上特別顧問の講話



昨年6月23日に大分県立美術館の特別顧問として就任した井上による、OPAMサポーターさんへの講話がついに実現しました！



専門の考古学のお話から、世界情勢に左右され文化財が消失されていく現実など、ニュースだけでは知りえない貴重な実体験を聞くことができました。また文化財を守り、次の世代へ引き継ぐことがいかに価値があるか改めて学ぶ機会となりました。

令和2年6月全体研修 昨年度の振り返りと交流会

サポーターさんと担当職員による活動を振り返っての発表では、普段なかなか知ることのない他グループの活動を知ることができました。また、グループごとの交流会ではサポーターさんと職員の間で活発な意見交換が行われました。



参加したサポーター皆さんに発表をしていただきました。



グループ担当職員との交流会は和やかな雰囲気で行われました。

令和2年9月全体研修 井上特別顧問による講話「コロナ禍での博物館・美術館の対応 そして今後」

新型コロナウイルスにより大分県立美術館も臨時休館を経験し、現在もこれまでとは違った形で開館を続けています。そのような中で、他の施設ではどのような影響がありどのような対策を取っているのか、東京国立博物館の例を中心に話していただきました。



井上特別顧問の講話の様子



質疑応答の様子

令和3年1月全体研修 おおいた国際交流プラザ橋本次長による講義「やさしい日本語」について

外国の方をはじめ、様々な方にOPAMの魅力を伝える方法として、「やさしい日本語」の研修を行いました。研修では話を聞くだけでなく「やさしい日本語」に言い換えてみたり、館内をまわるという実践も行いました。参加後のアンケートには、伝えるという気持ちが大切だという意見が多く見られ、最終的にはコミュニケーションを取りたいという気持ちが一番重要なかもしれないと考えさせられました。



1人ずつやさしい日本語への言い換え問題に答えられました。みなさん積極的に取り組まれていました。



館内をまわりながら、外国の方からの質問にこたえていきました。頭では理解していても実際に話すのが難しく、みなさん様々な言い方で説明に挑戦していました。



ポケトーク(AI通訳機)を使用し、自分たちが話す言葉が翻訳しやすく分かりやすい言葉になっているかを確認しました。